

鶴ヶ峰駅北口周辺地区まちづくり構想（案）について 説明会

- 議 事 要 旨 -

横浜市都市整備局市街地整備推進課及び旭区区政推進課では、鶴ヶ峰駅北口周辺地区におけるまちづくり構想の策定を進めています。

このたび、鶴ヶ峰駅北口周辺地区まちづくり構想（案）を策定し、構想確定に向けた市民意見募集に先立ち、説明会を開催しました。

1 開催状況

- (1) 日 時：平成30年12月19日（水） 午後7時～午後8時30分
- (2) 場 所：旭区役所新館2階大会議室
- (3) 内 容：策定の経緯、鶴ヶ峰駅北口周辺地区まちづくり構想（案）について、今後について

2 主な質問応答

(1) 行政機能や公共・公益施設等の更新について

Q1 旭区役所や旭図書館は駅前拠点ゾーンや市営住宅跡地に移転するのかを教えてください。

A1 区役所は建設当初と比べると、福祉関係の需要が大きくなり、別棟を増築するなどの対応をしてきましたが、分散して分かりづらい状況となっています。合わせて、老朽化の問題を抱えており、本構想の目標年次である20年後には築年数が約70年となります。

そこで、旭区役所や旭図書館など様々な行政機能や公共公益施設等の課題解決をまちづくりの中で検討していきたいと、構想（案）の中で「行政機能や公共公益施設等の更新」として位置づけています。

(2) 道路ネットワークの改善について

Q1 道路計画がどのようになるのかを教えてください。

A1 鶴ヶ峰駅周辺の道路の課題として、踏切だけでなく、水道道の鶴ヶ峰駅入口交差点などが渋滞の要因になっていると考えています。既存道路の改良も必要になってくるため、構想の対象範囲だけでなく、なるべく同時に課題が解決するように取り組みを進めていきたいと考えています。これから具体的な計画検討に入っていきたいと考えています。

(3) 周辺環境ゾーンについて

Q1 周辺環境ゾーンについて良くわからない。現状と変わらないということで良いかを教えてください。

A1 周辺環境ゾーンについては、なるべく保全していきたいというご意見をいただいております。現在の戸建てを中心とした住宅地と周辺の緑道などを一体的に良好な環境を形成するゾーンとして、基本的には現在の環境を保全していくゾーンと考えています。

まちづくりの方針にあるとおり、いつまでも住み続けられるまちづくりとして、環境の保全や緑のネットワークづくりに取り組んでいきたいと考えています。

(4) まちづくりの方向性について

Q1 神奈川東部方面線が整備された時に、鶴ヶ峰に人が来たくなるようなまちづくりを行うのかを教えてください。

A1 相鉄線が都心と直結する中で、鶴ヶ峰に住んでいる方は都心に行きやすくなり、同時に都心の方が鶴ヶ峰に来やすくなるような駅前づくりが必要と考えています。

鶴ヶ峰駅は全国的にも有名な「横浜動物の森公園」の玄関口となっていますので、このことを意識しながら駅前の拠点づくりを実施していきたいと考えています。

Q2 駅前で水と緑のテーマを表現するまちづくりを行うのかを教えてください。

A2 帷子川や帷子川親水緑道などがあるので、心地よく住み続けたいと思っていただけるようなまちづくりをしていきたいと考えています。

また、歴史にも深い関係のあるまちなので、歴史的資源を目指して人が来ていただけるようなまちを目指していきたいと考えています。

(5) まちづくりの計画について

Q1 より具体的に、5年後・10年後・15年後が想像できるような説明がほしい。

A1 今回はまちの将来像として、20年間という長い期間の構想をお示ししました。

これからテーマごとやゾーンごとに具体的な検討・プランづくりを進めていきたいと考えています。その中には大きな事業として、連続立体交差事業があるので、連動・連携して、まちづくりのプランを決めていきたいと考えています。まちづくりの計画は8ha全てではなく、段階的に整備の区域を絞って検討していきますので、5年ごと10年ごとの具体的なプランをお示し出来ると思います。

プラン作成につきましては、皆さまと意見交換をしながらとなりますので、引き続きご協力いただきたいと思います。

Q2 「あさひの朝市」のような旭区役所で行っている活動と商店街の活動が連携を取れるようになったら良い。一種のマルシェ的な感じになれば良い。可能であれば、駅前広場でやってもらいたい。

A2 ご意見として承らせていただきます。

(6) まちづくりの推進について

Q1 「地域」という定義は、鶴ヶ峰周辺に住んでいる人のことか、鶴ヶ峰駅を利用する人のことか教えてください。

A1 まちづくり構想は、対象範囲として鶴ヶ峰駅の北側の約8haの範囲を設定しています。一方、非常に広範囲の方が利用する地区でもあることから、ご意見として広く皆さまからいた

だきたいと考えています。

具体的なプランづくりについては、駅周辺の方々のご意見を中心に反映させていただき、まちづくりのプランを策定したいと考えています。

Q2 地権者との話し合いや調整をしっかりとやっていたかかないと進まないと思う。

A2 引き続き、地権者の方へご案内し、ご意見をいただきながら、進めていきたいと思えます。

Q3 一番の問題点は地域ではなく地権者だと思えます。具体的な駅前拠点ゾーンでの整備計画となると、非常に難しい。しかし、取り組まなければ、相鉄線が地下化されるだけという危惧がある。地権者も巻き込んで、プランづくりをやってもらうことが一番大事だと思えます。

A3 構想の検討にあたり、約8haの範囲の権利者の方を中心にご案内をして、これまで5回の検討会を実施しています。引き続き、権利者の方へご案内しながら、進めていきたいと思えます。

Q4 今後の進め方において、推進体制として、事業者が入っている。これまで、事業者などの専門性がある人が入っているのかを教えてください。

A4 今後まちづくりを進めて行く中で、専門性を持った方々の意見やアドバイスをいただきながら進めて行きたいと考えています。

(7) まちづくり構想の策定に向けた進め方について

Q1 構想の公表時には区民の意見は反映されているものなのかを教えてください。

A1 いただいたご意見の全てを反映できる訳ではございませんが、対応できる限り反映をして、構想を確定して行きたいと考えています。

(8) 連続立体交差事業の進め方について

Q1 どうやって鉄道を立体化するのか、どこから手を付けていくのかが大きな不安となっている。また、立体化にあたり、一部の踏切が使えなくなった時に、どこに別の道を作っていくのかなどを教えてください。安全対策上の問題が一番懸念される。

A1 連続立体交差事業については、平成30年度から手続き等を約5年間かけて進めて行く予定です。

鶴ヶ峰駅付近については、地下方式を採用することが望ましいと考えており、今後、国との協議を進めながら、構造形式が決定します。

実際にどのように線路を地下化していくのかについては、これから検討を進めて行きます。具体的な内容は、連続立体交差事業の手続きの中で、別途ご説明の機会があると思えます。

(9) その他

Q1 ココロット鶴ヶ峰が出来たことで、風の被害を受けている。雨の日は傘をさせない状態だ。現場の意見はどうか、その後調査をしているのか教えてください。

A1 ココロット鶴ヶ峰完成後の風に関する調査は行っておりません。

北口周辺でまちづくりを行っていく際には、ご意見をいただいたことを踏まえながら、検討をしていきたいと思えます。